

研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-110	A-153	14-050	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)			
Are psychosocial stressors associated with the relationship of alcohol consumption and all-cause mortality? 社会心理的ストレスはアルコール消費と全死亡の関係性に関連するか?			
執筆者			
Ruf E, Baumert J, Meisinger C, Döring A, Ladwig KH1; MONICA/KORA investigators.			
掲載誌			
BMC Public Health. 2014 Apr 4;14:312. doi: 10.1186/1471-2458-14-312.			
キーワード			PMID
飲酒、交絡因子、死亡率、心理社会的ストレス			24708657
要 旨			
目的： 中度飲酒に対する死亡率の関連についての複数の研究報告がなされているが、確認された関連が交絡因子の影響を排除できなかったことによるのか未だ不明確である。飲酒に対して交絡因子として影響を及ぼすと目される心理社会的ストレスはこれまで十分コントロールできていなかったため、アルコール消費と全死亡間の関連に対する交絡因子として作用するか検証した。			
方法： 2002 年まで集団コホート研究 KORA (Cooperative Health Research in the Region of Augsburg)の一環として、1984 年から 1995 年に実施された MONICA 研究の 3 つの断面調査に参加した 25-74 歳の 11,282 名の被験者を追跡調査した。罹患率や生活習慣の実態、臨床・心理社会的因子をアルコール消費別に比較検証した。全死亡リスクを検証するために生活習慣、臨床・心理社会的因子を含めた Cox 比例ハザードモデルを用いてハザード比を推定した。			
結果： ベースラインにて非飲酒者では望ましくない生活習慣や心理社会的ストレスにさらされていたにも拘らず、疾病発症は非飲酒者よりも飲酒者において有意に認められた。中度飲酒者に対する非飲酒者の多変数調整したハザード比は男性で 0.74 (95%信頼区間:0.58-0.94)、女性で 0.87 (95%信頼区間: 0.66-1.16)であった。男性の中度飲酒者では非飲酒者や重度飲酒者に対して多変数調整後においても有意に全死亡リスクが低かった(p=0.002)。女性では中度飲酒者は低い死亡リスクとの関連は認められなかった。			
結論： 本研究において病気による飲酒を取りやめた者の死亡リスクに対する影響を確認できたが、心理社会的ストレスによる交絡がアルコール消費と死亡率の関連において起こっている点について示すことができなかった。			